

17. 真原 A 遺跡

所在 地 武川村大字山高

調査原因 営農活動に先立つ発掘調査

調査期間 1998年10月20日～1998年11月20日

調査面積 450m²

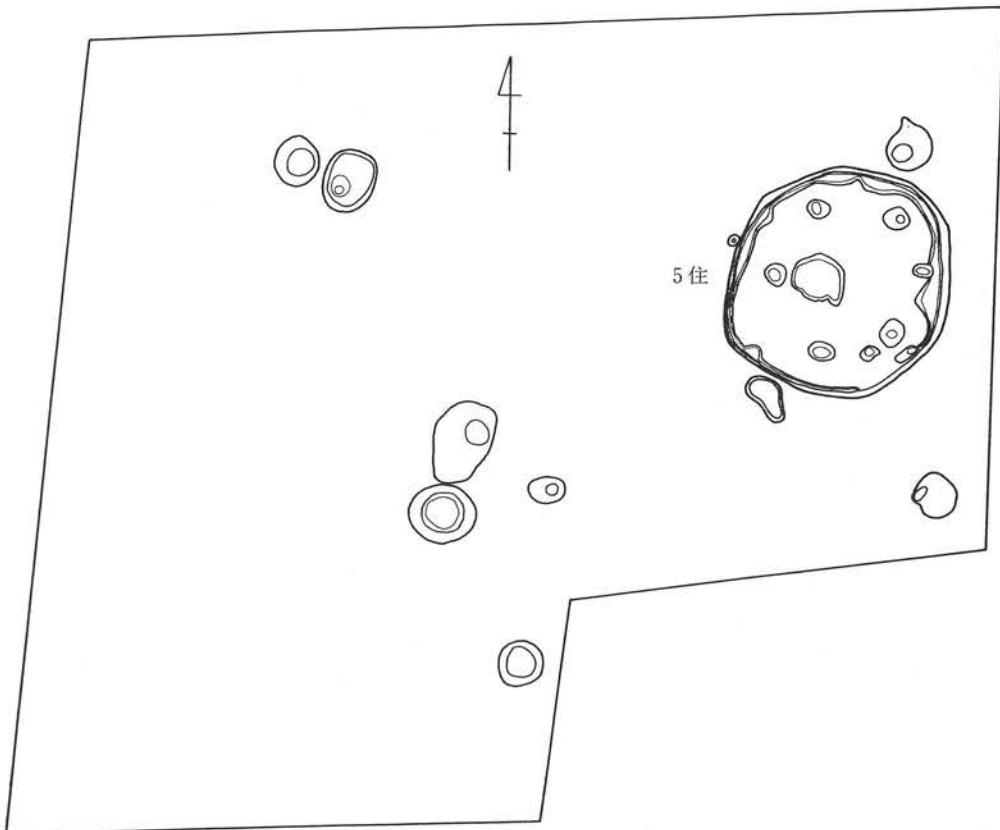
調査主体 武川村教育委員会

担当 者 竹田眞人



真原A遺跡は、北西側を石空川、南東側を黒沢川に挟まれた北向きの緩傾斜をなす台地上に立地する。今回発掘調査を行った地点は、武川村大字山高字真原に所在し、標高は約710mほどである。真原A遺跡では、昭和57年・平成8年度に調査が行われており、それぞれ曾利式期の住居跡が1・2件検出されている。平成10年度に行った調査地は、平成9年度に調査された地点の南側の隣接地である。

今年度、調査によって検出された遺構・遺物は曾利式期の住居跡が1軒、土壙2基および、同期の遺物である。5号住居跡（遺構Noは、平成8年度からの通しNoとしている。）は、円形で直径は約5.7mである。主柱穴は、5本もしくは7本で、炉は奥壁側により、石囲炉であったと思われるが、ほとんど抜かれているようである。周溝は壁にそって1周検出されている。また、埋甕が1基入り口部と思われる地点より検出されている。



真原A遺跡発掘区全体図 S = 1/200